

▶ 気管支喘息の方へ

気管支喘息もアレルギー症状の一環としてとらえています。

検査としては、胸部レントゲン撮影・呼吸機能検査(スパイログラフィー)とともに、アレルギー関連の血液検査もおこなっていきます。

採血にて、IgEや好酸球など気管支喘息・アレルギーに関する項目もみていきます。

これらの結果を踏まえて、治療方針を決定していきます。

治療薬は、

●基本薬『ベース薬』： 普段日常的に用いるお薬

●緊急薬『リリーバー』： 喘息発作が出た時などに用いるお薬

に、大別されます。

『ベース薬』としては、気管支拡張剤やロイコトリエン受容体拮抗薬などの内服薬か、吸入ステロイド剤又は漢方薬、あるいはこれらの組み合わせを選んでいきます。

比較的新しい薬であるロイコトリエン受容体拮抗薬(キプレス、シングレア)は、一日一回就寝前の服用で、気管支拡張作用と気管支の炎症を抑える効果を併せ持つため、気管支の状態を安定させてくれます。

吸入ステロイド剤は、気管支局所に作用するため副作用も無く、以前から気管支喘息治療薬の第一選択薬として使われていますが、最近は気管支拡張作用のある薬とステロイドとの合剤の吸入薬もいくつか登場していて、治療薬選択の幅が広がっています。この新しい合剤の吸入薬は即効性と持続性の両方の作用を兼ね備えているため、気管支の状態を安定させ、発作を起こしにくするとともに、軽い発作であれば抑えてしまう作用もあります。

これらの薬をどの様に組み合わせていくか、各々の患者さんに則して考えていきます。

緊急薬『リリーバー』については、 β 受容体刺激薬のスプレー(メプチンエアー・サルタノール・インヘラーなど)を用いた喘息発作時の対処の仕方及び、これらスプレーの適正な使い方について説明していきます。

また、先程も触れました様に、最近は即効性と持続性を併せ持った合剤の吸入薬も新しく出てきていますので、これを用いることにより、発作の出る回数が減り、緊急薬『リリーバー』を使用する頻度を減らすことができます。